WORLD THOROUGHBRED RANKINGS 2012

OVERVIEW

2012 年は世界の競馬サークルにとって素晴らしい一年であった。2004 年のワールドサラブレッドランキング創設以来、初めて 4 頭が 130 ポンド以上の評価を得ることとなった。その中で 140 ポンドの大台に達する馬も出現した。また、ランキング史上初めて南米調教馬も掲載されることとなった。アルゼンチンとブラジルから各 3 頭、チリから 2 頭、ペルーから 1 頭の馬が 115 ポンド以上となった。本当の意味での世界ランキングが誕生したと言える。

World Thoroughbred Rankings

The Top 12 Horses in 2012

click here for complete rankings

Rank	Horse	Rating	Trained
1	FRANKEL (GB)	140	GB
2	CIRRUS DES AIGLES (FR)	131	FR
3	BLACK CAVIAR (AUS)	130	AUS
3	EXCELEBRATION (IRE)	130	IRE
5	WISE DAN (USA)	129	USA
6	ORFEVRE (JPN)	127	JPN
7	MONTEROSSO (GB)	126	UAE
7	NATHANIEL (IRE)	126	GB
7	SO YOU THINK (NZ)	126	IRE
10	FORT LARNED (USA)	125	USA
10	HAY LIST (AUS)	125	AUS
10	I'LL HAVE ANOTHER (USA)	125	USA

英調教の 4 歳馬**フランケル【140】**は 2012 年も無敗を継続した。同馬は５つの G1 競走を制し、レーティングも前年の 136 ポンドから、歴史的な評価となる 140 ポンドへ更新した。ライバル達を 11 馬身突き放し、圧巻のパフォーマンスを見せたクイーンアン S(G1)で自己最高となる評価を得た同馬は、2000mへと距離延長となった英インターナショナル S(G1)でもマイル同様のパフォーマンスを見せ、同等の評価を得た。

140 ポンドという評価も然ることながら、同馬の成績で極めて驚異的なことはこれまで 8 回の競走において 130 ポンド以上の評価を得ていることであり、さらにその内 6 回が 135 ポンド以上となったことであろう。

近年の歴史的名馬との比較で考えると、2009 年の**シーザスターズ【136】**の成績を見てみると 130 ポンド以上は 3 回で、135 ポンド以上を記録したのはその内 1 回のみである。
ヨーロッパに限定して考えると、1977 年の国際クラシフィケーション創設以来、8 頭が 2 歳及び 3 歳時の両方でチャンピオンとなっているが、**フランケル**は 2〜4 歳時に 3 年連続してチャンピオンとなる史上初の快挙を成し遂げた。
稀代の名馬である同馬は、競走馬の歴史の中で新たな金字塔を打ち立てたと言っても過言ではなかろう。

オーストラリアの牝馬、**ブラックキャビア【130】**はこちらも無敗を継続中である。2012 年に５つの G1 競走を制した同馬は、2 月にフレミントン競馬場で行われたライトニング S(G1)では**ヘイリスト【125】**を含むトップホース相手に楽勝している。前年より 2 ポンドほどレーティングが下がったが、同馬の競馬スタイルに加え、牝馬のアローワンスが 2kg（4 ポンド）ある馬齢重量戦にのみ出走していた状況を考えるとレーティングという観点から見た時に前年より低い値になってしまうことは致し方ないことと思われる。
同馬は 2011 年のニューマーケット H(G1)では牡馬を含めトップハンデでの勝利であったため、高いレーティングとなっていた。
このことを勘案すると、130 ポンドという評価は前年より同馬の能力が衰えたということではなく、すでに述べたような現実を反映したものであると言える。
ライトニング S の 7 日前に出走したオーア S(G1)では初めて 1400mを経験したがこれも快勝し、これにより古馬牝馬マイル部門で世界トップとなった。
オーストラリアがワールドサラブレッドランキングに参加したのは 2004 年からであるが、国際クラシフィケーション創設以降、同馬より高い評価を得たヨーロッパの牝馬はいないことを付言したい。**フランケル**同様、同馬は牝馬部門での金字塔を打ち立てたと言っても過言ではないであろう。

ヘイリストはニューマーケット H(G1)を制し芝の古馬牡馬スプリント部門でランキング史上、2011 年の**ロケットマン【125】**と並ぶ最も高い評価を得たが、常に**ブラックキャビア**の影に隠れた存在であった。同様のことが 5 回対戦し常に**フランケル**の後塵を拝し続けてきた**エクセレブレイション【130】**にも言える（同馬は**フランケル**に対して平均 5 馬身差の 2 着となっていた）。
同馬は**フランケル**不在であったクイーンエリザベス 2 世 S(G1)を快勝、その存在をアピールした。

エクセレブレイションがブリーダーズカップマイル(G1)を制することが出来なかった一つの理由は、地元勢が強力だったからであろう。その筆頭が北米調教の　馬**ワイズダン【129】**である。同馬はこの勝利により、アメリカ及びカナダが 1995 年に国際クラシフィケーションに参加して以来、1995 年の**ノーザンスパー【129】**と並び、北米の芝ではトップの評価を得ることとなった。
ダートのスティーヴンフォスターH(G1)では敗れたものの（それでも負担重量の関係でこの競走の出走馬中では最高の 123 ポンドを得ているが）、芝では３つの G1 競走を制しており、また人工馬場での唯一の出走となったベンアリ S(G3)でも圧巻のパフォーマンスを見せ、ダート・人工馬場のマイル部門では 125 ポンドでトップの評価を得ている。

馬場に関係なく圧巻のパフォーマンスを見せてきた同馬は 2006 年の**ラヴァマン【127】**を彷彿させるもので、このまま無事に行けば、21 世紀の**ジョンヘンリー**になれる可能性も秘めている。

シリュスデゼーグル【131】は**ワイズダン**同様、衰えを知らない　馬で、年を重ねる毎にむしろ進化していると言える。2010 年には 118 ポンドだった同馬は 2011 年には 128 ポンド、そして 2012 年にはガネー賞(G1)とドラール賞(G2)も制し、英チャンピオン S(G1)では**フランケル**の 2 着となったことで生涯最高となる 131 ポンドの評価を得たものである。同馬は 2004 年以降のランキング史上では 2007 年の**マンデュロ【131】**と並んで最も高い評価を得た仏調教馬となった。仏調教馬では他にも傑出した 3 歳牝馬 2 頭がランクインしている。アガカーン殿下所有の**ヴァリラ【120】**と**リダジーナ【120】**でこの 2 頭は 3 歳牝馬の中距離部門のトップで並んでいる。
前者は仏オークス(G1)、後者はオペラ賞(G1)を制している。

2012 年で残念な点を上げるとヨーロッパの 3 歳牡馬が通常のレベルに達していなかったことである。その中で頭一つ抜きん出ていたのが愛調教馬**キャメロット【124】**である。2011 年のヨーロッパ 2 歳チャンピオンであった同馬は、英 2000 ギニー(G1)と英ダービー(G1)を制し、3 冠制覇の期待がかかっていたが、距離延長となった英セントレジャー(G1)では**エンキ【120】**にあと一歩のところで敗れた。
同馬は英 2000 ギニーのパフォーマンスで得た 119 ポンドという評価により、南ア調教馬**バラエティクラブ【119】**　と**ブラックキャビア**の半弟である豪調教馬**オールトゥハード【119】**と並んで、3 歳牡馬マイル部門のトップにもなっている。
また英ダービーでの鮮やかな勝ち振りで 124 ポンドの評価を得た同馬は、日本の**ゴールドシップ【124】**と並んで 3 歳芝部門のトップタイとなっている。
日本の牡馬クラシック競走の内、2 冠を制していた**ゴールドシップ**は 12 月下旬の有馬記念(G1)で古馬相手に完勝し、この評価を得た。これにより、2004 年以降のランキング史上において、2005 年の**ディープインパクト【124】**と並んで 3 歳馬としては日本歴代最高の評価を得た。

牝馬のアローワンスを加えると、2012 年に世界最高の評価を得た 3 歳芝部門の馬は日本の牝馬 3 冠を制し、3 歳牝馬初のジャパンカップ制覇を成し遂げた**ジェンティルドンナ【122】**である、と言えるかもしれない。同馬は、能力は抜きん出ているものの、気性にやや難のある**オルフェーヴル【127】**を同競走で降している。
その**オルフェーヴル**は、凱旋門賞(G1)では**ソレミア【122】**にあと僅かのところで歴史的偉業達成を阻まれてしまったが、宝塚記念(G1)を快勝しており、これにより古馬芝の長距離部門でトップに立っている。この評価は 2004 年以降のランキング史上において日本調教馬としては 2006 年の**ディープインパクト【127】**と 2010 年の**ナカヤマフェスタ【127】**と並ぶものである。

日本のクラシック世代が非常にレベルが高かったのと同様、オーストラリアの 3 歳世代もレベルが高かった。その代表格が**アトランティックジュエル【122】**と**セポイ【122】**である。**アトランティックジュエル**は同馬が 3 歳となった 2011 年シーズン後半は 3 歳牝馬の芝 1600mと 2000mの部門で 121 ポンドの評価を得てトップタイとなったが、2012 年 4 月には 1200mのサファイア S(G2)を制して、距離の融通性の高さを示した。この時の評価は 122 ポンドであるが、芝の 3 歳牝馬スプリント部門

においては、それまでの歴代トップであった 2011 年の**ムーンライトクラウド【118】**を 4 ポンドも上回る非常に高い評価となった。
セポイは前年よりも 1 ポンド低い評価となったものの、依然として 3 歳芝スプリント部門のトップの座を維持している。同馬がこの評価を得たのはハンデ戦のオーレイプレート(G1)において 1 馬身差に敗れた時である。

ヨーロッパにおいては独調教 3 歳馬のレベルが非常に高かった。ヨーロッパの混合戦を制した 3 歳馬は 2 頭しかいなかったが、いずれも独調教馬であったことにその傾向が現れている。その代表格がバイエルンツフトレネン(G1)を制した**パストリウス【122】**であろう。これにより同馬は 3 歳芝中距離部門のトップとなった。これはランキング史上における独調教馬としては初の快挙である。
また**デインドリーム【124】**は前年に凱旋門賞を制した時のレベルには及ばなかったものの、安定した成績を残していた**ナサニエル【126】**をキングジョージ 6 世＆クイーンエリザベス S(G1)で写真判定の末、僅差降している。これにより古馬牝馬の長距離部門ではトップに立つことになった。また、ヨーロッパの芝の古馬牝馬の序列を見ると、ランキング史上においては 2009 年の**ゴルディコヴァ【130】**に次ぐ評価で、**スノーフェアリー【124】**と並んで 2 位タイとなっている。
英調教馬の**スノーフェアリー**は 2010 年に 120 ポンド、2011 年には 122 ポンドとなっていたが、愛チャンピオン S(G1)では並み居る牡馬を降し、自己最高の 124 ポンドの評価を得た。
これはヨーロッパの古馬牝馬の中距離部門では 1997 年の**ボスラシャム【131】**に次いで高い評価となった。

ダート・人工馬場部門の各カテゴリーはドバイ及びアメリカで良績を上げた馬によって独占されている。メイダン競馬場の人工馬場で行われた競走では**モンテロッソ【126】**と**クリプトンファクター【124】**が快勝、それぞれの部門トップとなっている。前者はドバイワールドカップ(G1)を、後者はドバイゴールデンシャヒーン(G1)をそれぞれ制している。
米調教馬**アイルハヴアナザー【125】**は**ボーディマイスター【124】**を米 3 冠競走の最初の２つで降したが、その後故障により引退を余儀なくされた。プリークネス S(G1)を制した時のパフォーマンスにより同馬は 3 歳部門全体のトップとなった。
これは 2006 年以来久々の快挙である（2006 年に**ベルナルディーニ**とディ**スクリートキャット**が 128 でトップとなって以来の快挙）。
北米の牝馬で目立った活躍を見せたのは**ロイヤルデルタ【121】**と**グルーピードール【121】**である。

ロイヤルデルタは 11 月のブリーダーズカップレディーズクラシック(G1)を制して、自己最高を 2 ポンド更新し、ダート・人工馬場における古馬牝馬の 1600m～2000m の部門でトップに再び立った。
一方、**グルーピードール**は 5 月のヒュマナディスタフ(G1)とブリーダーズカップフィリー＆メアスプリント(G1)を制し、牝馬ダートスプリント部門のトップに君臨した。
121 ポンドという評価は、牝馬ダートスプリント部門ではランキング史上最高の評価となる。

フォートラーンド【125】はブリーダーズカップクラシック(G1)を制し、古馬ダート部門の頂点に立った。また層の厚かった北米の芝部門からは、共に G1 3 勝を上げた**リトルマイク【123】**と**ポイントオブエントリー【123】**の名前も上げておきたい。

今回初めてランキングに掲載されることとなった南米調教馬であるが、そのトップに立ったのはカルロスペレグリーニ国際大賞(G1)を制したブラジル調教馬**ゴーイングサムウェア【119】**である。同馬はこの競走でアルゼンチン調教馬**インディポイント【118】**とブラジル調教馬**ディディモ【115】**を降している。

インディポイントは 11 月にダートのナシオナル大賞(G1)でも同様の評価を得ている。また**ディディモ**もこの競走の前にブラジルで G1 競走を制していた。

カルロスペレグリーニ国際大賞はヨーロッパにおけるキングジョージ６世＆クイーンエリザベス S に相当するもので、南米調教馬のレベルを図る上で、同地域のハンデキャッパーにとって非常に有用な競走である。

南米調教馬が世界各地を転戦することによりさらにレベルを正確に知ることができる。南米調教馬がブリーダーズカップに初めて出走したが、アルゼンチン調教馬**カリドスコーピオ**がブリーダーズカップマラソン(G2)を制したことは南米調教馬にとって初の快挙であり新たな歴史を刻んだことになった。